科目名称	成人看護学実習Ⅰ(回復期看護)	学年学期	単位数	時間数
		第2学年　後期	2	90
担当教員	小路　陽子	授業に関わる実務経験	■ 有 （ 看護師 ） □ 無	

【1】 授業概要

回復期にある対象の健康上の課題に対応するための基礎的知識・技術・態度を習得する。

【2】 学習目標

1.回復期にある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、生活への影響までとらえることができる。
2.対象の疾患について病態生理、治療を理解し、二次的障害の予防のための援助ができる。
3.対象の回復過程に応じた日常生活行動の拡大・自立への援助ができる。
4.対象の生活構築のための他職種との連携を説明できる。
5.実習を通し今後の自己の課題を考えることができる。

【3】 第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■ 5. 多職種との連携・協働
■ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

※在院日数の短縮により、3週間同じ患者を受け持ち看護過程の展開をできることは少ない。受け持ち期間、受け持ち患者の状態に応じて授業計画は変更される。担当教員と相談しながら実習を行う。

	内容	主な授業形態
実習1週目	・ 病棟オリエンテーションから、病棟の構造・設備を踏まえた患者の入院環境と患者像を理解する。 ・ 疾患により機能障害を受け回復過程にある対象を受け持ち、ゴードンの11パターンに沿って情報を分析する。どのような健康障害が生じているか考え、日常生活への影響をアセスメントする。 ・ 病棟でのカンファレンス(ケース、退院支援、NST など)へ参加し、他職種との連携(チームアプローチ)について学ぶ。	臨地実習
実習2週目	・ 受け持ち患者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。日々の実習の中で看護計画の実施・評価・修正を行う。 ・ ミニカンファレンスで関連図を踏まえて看護計画について話し合い、よりよい看護実践につなげる。	
実習3週目	・ 受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、障害の受容、障害に応じた日常生活の援助、セルフケアを促進させる方法、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、回復期過程における看護を学ぶ。	

【5】 評価方法

成人看護学実習Ⅰの到達度基準に従い、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後までの学習状況から、学生・教員(臨地実習指導者所見含む)で評価を行い、60 点以上を合格とする。

【6】 教科書

なし

【7】 参考書

成人看護学実習Ⅰ前オリエンテーションで配布した資料
下記の授業で使用したテキストおよび配布資料
「成人看護学概論」「成人看護学Ⅰ～Ⅳ」「臨床看護総論」「基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ」「フィジカルアセスメント」「看護過程Ⅰ・Ⅱ」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ～Ⅵ」「栄養学」「薬理学」「リハビリテーション医学」「社会福祉Ⅰ」

【8】 受講生へのメッセージ

臨地で患者さんを受け持ち、患者さんが回復していく過程で必要な看護は何かを考え、実践する実習です。既習の看護過程を展開し、学びを深めましょう。